

年 組 名 前

2020年7月25日 中日こどもウイークリー

藤井棋聖の才能



杉本昌隆 将棋棋士、八段。1968年生まれ。2人の子の父親。高校生棋士の藤井聡太棋聖の師匠としても知られます。

弟子の藤井聡太七段が史上最年少でタイトルを獲得しました。16日の棋聖戦です。14歳でのデビューからわずか4年足らずの快挙。そして、今は中日新聞社主催の王位戦でも木村一基王位と7番勝負の真っ最中。二冠を目指して戦っています。

王位戦挑戦を決めた夜、藤井七段に祝福の電話をかけました。疲れているはずですが、さつきまで指していた将棋の内容の話になると、どんどん声が元気になり、こちらがタジタジに。「才能とは好きな気持ちを持ち続けられること」。

彼を見ているとそれを感じます。「やりたいことが見つからない」。若い人がこう言うのを時折耳にします。目標がなく、何となくやる気が起きない。結果、テレビなどをタラタラ見て時間をつぶしてしまつ。もったいないことです。将棋では、詰め将棋を解くというトレーニングがあり、算数の問題を解くのに非常に似ています。頭の中で計算をして二人で先を読む。勉強としては地味で孤

独。なかなかつらい勉強法です。藤井少年がまだ小中学生だったころ、同世代の兄弟子たちと、詰め将棋の同じ問題集を買い、「誰が一番たくさん解けるか、1週間後に答え合わせをしよう」と宿題を出し合っていました。

この方法だと競争心理が働き、長く勉強する理由付けになります。誰も見ていないので、解くの時間がかかっても恥ずかしくありません。元々、詰め将棋好きな藤井七段より、周りの兄弟子たちにとって有効な勉強法でしたが、「身近な目標を設定して、やる気を出す」工夫に感心したものです。

その後の藤井七段の活躍はご承知の通りですが、兄弟子たちも大學生になり、将棋に学業にまい進しています。努力や集中力はどの分野にも通じるものなのです。

「好き」を持ち続けよう

問い: 杉本さんのお話を読んで、心に残ったことをメモしましょう。

【活用にあって】

「好き」を持ち続ける前に、そもそも自分は何が好きなのか分かりません — 子どもたちからそんな声が聞こえてきそうです。

「好き」を見つける方法があります。新聞を毎日読んで、好きな記事、気になった記事を選び、それを切り抜き、ノートに貼る。スクラップをすることです。これを1か月続けましょう。

新聞には社会の様々な出来事が書かれています。興味・関心のない記事もあるでしょう。でも、さっと見出しに目を通すだけ、写真を見るだけでもいいでしょう。新聞を開くことです。その中から、1日1本で構いません。「今日はこれがお気に入り」という1本を切り抜き、貼り付けます。

1か月経ったところで、ノートをゆっくりと見返します。どんな記事が多いですか。自分の「好き」がじわじわと見えてきます。新たな分野への関心が高まっているかもしれませんね。

スクラップで、自分の「好き」に出会いましょう。